

キャラクター名
青鳥（あおがらす）

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ		ワークス	レネゲイドビーイングA	カヴァー	用心棒
	ブラックドッグ			年齢	不明	性別
オプション	覚醒	渴望	衝動	飢餓	初期侵食率	36%
	出自	使命	経験	勧誘	邂逅	秘密

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	39
肉体	5	1	3			9	行動値	3
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	3
精神	1	0	0			1	戦闘移動	8
社会	1	0	0			1	全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	3		射撃	1		RC			交渉		
回避	1		知覚			意志	4	1	調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
破壊の爪	白兵	9r+3	1	LV+8		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
思い出の一品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
No.37 羅刹	P	N		
都築 京香	P 好奇心	N 不信任		
伊比津 美摘 (和御魂)	P 友情	N 侮蔑		
ひかひかの5円玉	P 懐旧	N 偏愛		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2 残り財産P: 0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
ヒューマンズネバー	1	-	常時	至近	自身	自動	RB	
効果:	2:178p 衝動判定D+LV個 (侵蝕率D増加しない)							
オリジン:アニマル	1	2	マイナー	至近	自身	自動	RB	
効果:	2:178p シーン間、素手攻撃力+[LV×2]							
イオクラフト	1	1	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	EA37p 飛行移動 距離+[LV×2]							
破壊の爪	1	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	EA59p シーンの間、素手のデータ変更							
完全獣化	3	6	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	EA57p 肉体の判定Dを+[LV+2] アイテム使用不可							
コンセプト:キュマイラ	2	2	Xジェネ	-	-	-	-	
効果:	C値をLVする(下限7)							
獣の力	4	2	Xジェネ	武器		対決	-	
効果:	EA58p 攻撃力+[LV×2]							
バリアクレッカー	1	4	Xジェネ	武器	-	対決	80%↑	
効果:	EA41p ガード不可+装甲無視 対決LV回							
獣の直感	1	-	Xジェネ	至近	自身	自動	-	
効果:	EA63p 天候や自身など予測する。							
セキュリティカット	1	1	Xジェネ	視界	効果参照	自動	-	
効果:	EA43p 電子的に施錠されたものを解除できる。							
効果:								
効果:								
効果:								

【コピー用】
PC2: あおがらす
CN: 宵羽の戦神 (よいばねのせんじん)
キュマイラ / ブラックドッグ

カラーコード: 宵羽 394B5D

【備考】
性格は良く言えば鷹揚で悪く言えば大雑把。
大抵のことは笑って流すし、何を言われても「人間は愛いな」で受け流すし、大事なことも雑に聞き流してしまうこともある。
基本的には広く情に厚いが、うっすら無関心でもある。神様なので縁はとても大事にしているが、無条件で興味があるのは戦のことで、ご飯のことで、一人の人間のことでくらい。

戦や争い事に加護がある神様として、とある山で祀られていたかつての神獣。
姿は青く光る羽を持つ巨大な鳥。半身は猛獣で、見た目はグリフォンや鷲に近い。
村同士の争いがあつた頃や戦時中は持て囃された神だったが、世が平和になるにつれ不要となり、山から人も離れていき、忘れられた存在となった。
信仰が薄れ、朽ちかけた祠とともに消えかけていたところを幼い子供に救われ、縁を繋ぐ。
その直後に争いの気配を感じ、力を取り戻しかけたところにレネゲイドウィルスに感染し、オーヴァードとなった。
今は加護を与える存在ではなく、自分自身が戦神として闘争の中心に踊り立つ。

自分にとっての愛しい、紺野 当璃と出会ったのは彼が幼い頃。
山の中で迷った当璃が青鳥の祠へたどり着き、握りしめた5円玉を捧げて帰路を願った。